

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-58894

(43) 公開日 平成5年(1993)3月9日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 31/425	ADU	7252-4C		
31/05		8413-4C		
31/08		8413-4C		
31/085		8413-4C		
		7729-4C		
			C 0 7 D 307/32	G

審査請求 未請求 請求項の数11(全 26 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平3-215448

(22) 出願日 平成3年(1991)8月27日

(71) 出願人 000000941

信濃化学工業株式会社

大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号

(72) 発明者 作田 正義

大阪府豊中市本町八丁目4-3

(72) 発明者 米田 俊之

アメリカ合衆国、78230 テキサス州、サンアントニオ、ハンターズ サウンド 3530

(72) 発明者 西村 理行

大阪府豊中市上新田2-19-10-105

(72) 発明者 白石 忠義

兵庫県高砂市西畑三丁目8-14

(74) 代理人 井理士 朝日奈 宗太 (外1名)

(54) 【発明の名称】 抗腫瘍剤

(57) 【要約】

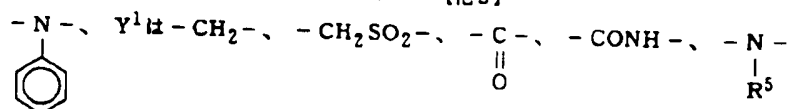
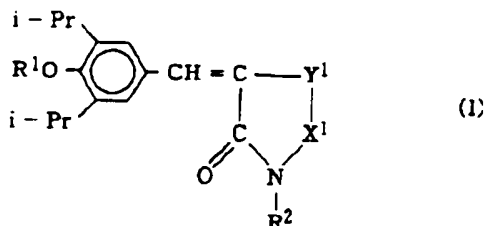
【目的】 毒性の低い、強力な抗腫瘍剤を提供する。

【構成】 チロシンキナーゼ活性を示す3,5-ジイソプロピルベンジリデン複素環式化合物、4-チアゾリノン誘導体、3,5-ジイソプロピル-4-ヒドロキシスチレン誘導体、3,5-ジターシャリープチル-4-ヒドロキシスチレン誘導体、 α -シアノアクリル酸アミド誘導体、 α -ベンジリデン- γ -ブチロラクトンまたは γ -ブチロラクトム誘導体、スチレン誘導体、4-アルコキシスチレン誘導体、3-フェニルチオメチルスチレン誘導体、トリベンジルアミン誘導体、 α -シアノケイ皮酸アミド誘導体またはこれらの造塩可能なものの塩を有効成分とする抗腫瘍剤である。

【特許請求の範囲】

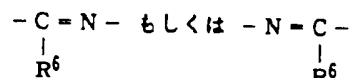
【請求項1】 一般式 (I) :

【化1】



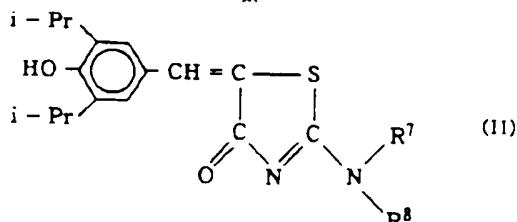
(R⁴ は水素原子またはC₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす)、-NHCO-、酸素原子または硫黄原子、またはX¹-Y¹ は

【化4】



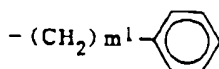
(R⁴ は水素原子、C₁ ~ C₃ のアルキル基、モルホリノ基またはフェニル基を表わす)、

【化5】



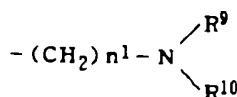
(式中、R⁷ は水素原子、C₁ ~ C₃ のアルキル基または

【化7】



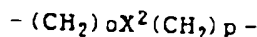
(m¹ は1~3の整数を表わす)、R⁸ は

【化8】



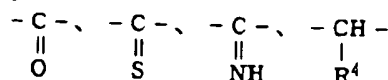
(n¹ は1~4の整数、R⁹、R¹⁰は同一または相異なり、水素原子またはC₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす)、またはR⁷とR⁸は互いに結合して

【化9】



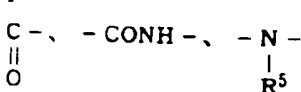
* (式中、R¹ は水素原子またはベンジル基、R² は水素原子、COR³ (R³ は水素原子またはC₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす) で示されるアシル基またはフェニル基、X¹ は

【化2】

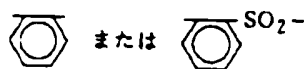


(R⁴ は水素原子またはC₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす) または

* 〔化3〕



※



20

を表わし、i-Prはイソプロピル基を表わす) で示される3,5-ジイソプロピルベンジリデン複素環式化合物またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項2】 一般式 (II) :

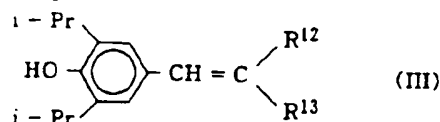
【化6】

※

(o、pは同一または相異なり1~4の整数、X²は酸素原子またはN-R¹¹ (R¹¹は水素原子またはC₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす) を表わす)、i-Prはイソプロピル基を表わす) で示される4-チアゾリノン誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項3】 一般式 (III) :

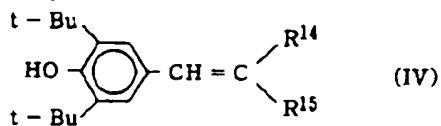
【化10】



(式中、R¹²は水素原子、シアノ基またはアミド、R¹³はアミドまたはCONHCONH₂、i-Prはイソプロピル基を表わす) で示される3,5-ジイソプロピル-4-ヒドロキシルステレン誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項4】 一般式 (IV) :

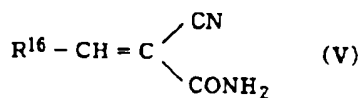
【化11】



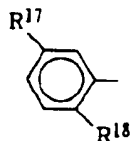
(式中、 R^{14} はカルボキシル基またはカルバモイル基、 R^{15} は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルキル基、シアノ基またはヒドロキシエチル基、 t-Bu はターシャリーブチル基を表わす)で示される3,5-ジターシャリーブチル-4-ヒドロキシスチレン誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項5】 一般式 (V) :

【化12】

(式中、 R^{16} は式:

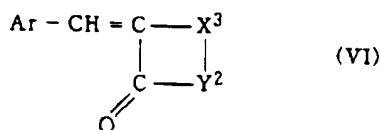
【化13】



(R^{17} 、 R^{18} は共にOHであるかまたは R^{17} 、 R^{18} の少なくとも一方がフェノキシ基を表わす)で示される置換フェニル基またはフェロセニル基を表わす)で示される α -シアノアクリル酸アミド誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

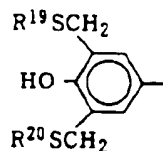
【請求項6】 一般式 (VI) :

【化14】



(式中、Arは

【化15】



(R^{19} 、 R^{20} は同一または相異なり、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルキル基を表わす)または

【化16】

で示される置換フェニル基、 X^3 は $-(\text{CH}_2)_n-$ または

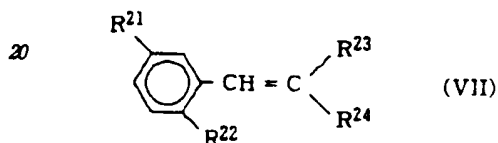
【化17】



(Y^2 は酸素原子またはNHを表わす)で示される α -ベンジリデン- γ -ブチロラクトンまたは γ -ブチロラクトン誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項7】 一般式 (VII) :

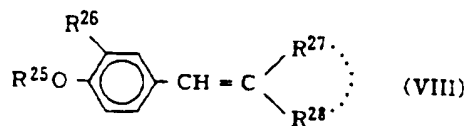
【化18】



(式中、 R^{21} 、 R^{22} は同一または相異なり、水素原子、水酸基もしくは $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルコキシ基であるかまたは R^{21} がフェノキシ基、 R^{22} が水素原子を表わし、 R^{23} はニトロ基、 R^{24} は水素原子、または R^{23} と R^{24} は結合して $-\text{COOCH}_3$ 、 CH_3- または $-\text{CONHCONH}-$ を表わす)で示されるスチレン誘導体またはその造塩可能なものの塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

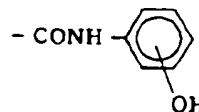
【請求項8】 一般式 (VIII) :

【化19】



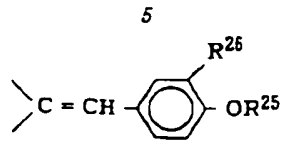
(式中、 R^{26} は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルキル基、 R^{27} は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルキル基または $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ のアルコキシ基、 R^{28} は

【化20】

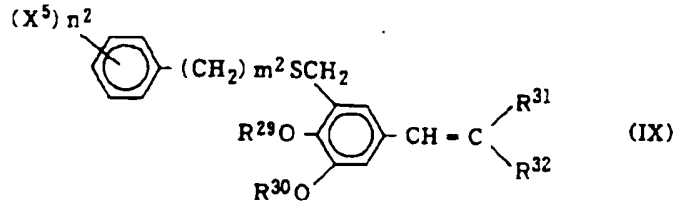


で示されるアリールカルバモイル基、 R^{28} は水素原子、または R^{27} と R^{28} は互いに結合して $-\text{COX}^4$ 、 CH_3 、 C_6H_5 、 $-(\text{X}^4 \text{はNHまたは})$

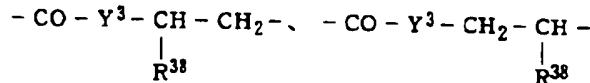
【化21】



(R²⁵, R²⁶は前記と同じ)で示される4-アルコキ*

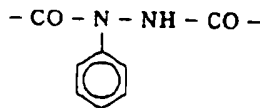


(式中、X⁵ は水素原子、R²⁹O (R²⁹はC₁~C₈のアルキル基を表わす)で示されるアルコキシ基、C₁~C₈のアルキル基、ニトロ基、アミノ基、水酸基、ハロゲンまたはCOOR²⁴ (R²⁴はC₁~C₈のアルキル基を表わす)で示されるアルコキシカルボニル基、R³⁰は水素原子、C₁~C₈のアルキル基またはR³⁰CO (R³⁰はフェニル基またはC₁~C₈のアルキル基を表わす)



(R³⁸は水素原子またはC₁~C₈のアルキル基、Y³は酸素原子またはNHを表わす)または

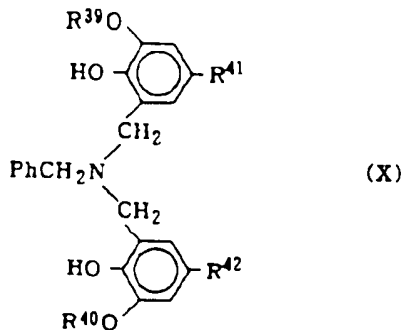
【化24】



を表わし、n²はX⁵がハロゲンのとき1~5の整数、30
 それ以外のばあいには0または1、m²は0~3の整数を表わす)で示される3-フェニルチオメチルスチレン誘導体またはその塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項10】 一般式(X)：

【化25】



40

*シスチレン誘導体またはその塩を有効成分として含有する抗腫瘍剤。

【請求項9】 一般式(IX)：

【化22】

※)で示されるアシル基、R³¹は水素原子またはC₁~C₈のアルキル基、R³²はCOOR³¹ (R³¹は水素原子またはC₁~C₈のアルキル基を表わす)またはアミド、R³³はシアノ基またはR³³SO₂ (R³³はC₁~C₈のアルキル基を表わす)で示されるアルキルスルフォニル基、またはR³¹とR³²は互いに結合して

【化23】

(式中、R³¹、R³²は同一または相異なり、水素原子またはC₁~C₈のアルキル基、R³³は同一または相異なり、

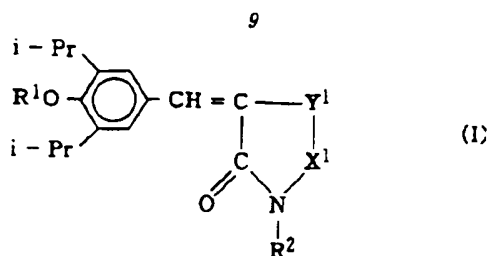
【化26】



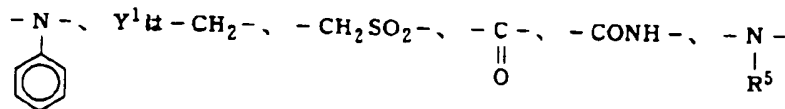
(XI)

$$\begin{array}{c} \text{R}^{45} \\ \diagdown \\ \text{N} - \\ \diagup \\ \text{R}^{46} \end{array}$$

-717-



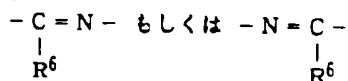
【0007】(式中、R¹ は水素原子またはベンジル基、R² は水素原子、COR³ (R³ は水素原子または C₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす) で示されるアシル基*



【0011】(R⁴ は水素原子または C₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす)、-NHCO-, 酸素原子または硫黄原子または X¹ - Y¹ は

【0012】

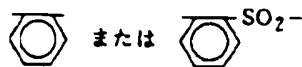
【化32】



【0013】(R⁴ は水素原子、C₁ ~ C₃ のアルキル基、モルホリノ基またはフェニル基を表わす)、

※【0014】

【化33】

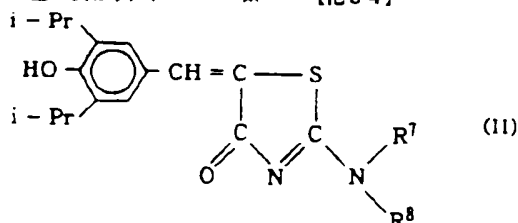


20

【0015】1-Pr はイソプロピル基を表わす) で示される3,5-ジイソプロピルベンジリデン複素環式化合物、一般式 (II) :

【0016】

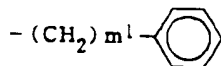
【化34】



【0017】(式中、R⁷ は水素原子、C₁ ~ C₃ のアルキル基または

【0018】

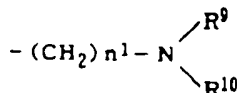
【化35】



【0019】(m¹ は1~3の整数を表わす)、R⁸ は

【0020】

【化36】



【0021】(n¹ は1~4の整数、R⁹、R¹⁰ は同一または相異なり、水素原子または C₁ ~ C₃ のアルキル基を表わす)、または R⁷ と R⁸ は互いに結合して

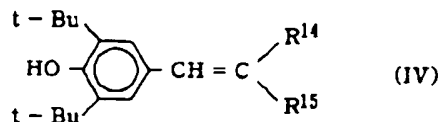
【0022】

11

プロピル-4- ヒドロキシステレン誘導体、一般式 (I)
V) :

【0026】

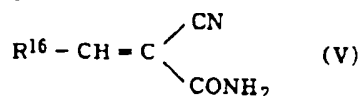
【化39】



【0027】 (式中、R¹⁴はカルボキシル基またはカル
バモイル基、R¹⁵はC₁ ~ C₄ のアルキル基、シアノ基
またはヒドロキシエチル基、t-Buはターシャールブチ
ル基を表わす) で示される3,5-ジターシャールブチル-4
- ヒドロキシステレン誘導体、一般式 (V) :

【0028】

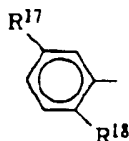
【化40】



【0029】 (式中、R¹⁷は式:

【0030】

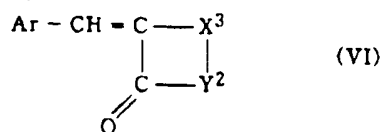
【化41】



【0031】 (R¹⁷、R¹⁸は共にOHであるかまたはR
¹⁷、R¹⁸の少なくとも一方がフェノキシ基を表わす) で
示される置換フェニル基またはフェロセニル基を表わ
す) で示されるα-シアノアクリル酸アミド誘導体、一
般式 (VI) :

【0032】

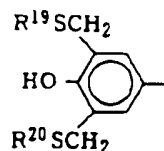
【化42】



【0033】 (式中、Arは

【0034】

【化43】

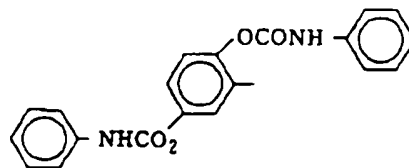


12

【0035】 (R¹⁹、R²⁰は同一または相異なり、C₁
~ C₄ のアルキル基を表わす) または

【0036】

【化44】



【0037】で示される置換フェニル基、X³ は- (C
H₂)_n ; -または

【0038】

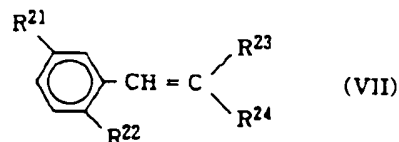
【化45】



【0039】Y² は酸素原子またはNHを表わす) で示
されるα-ベンジリデン-γ-ブチロラクトンまたはγ
-ブチロラクトム誘導体、一般式 (VII) :

【0040】

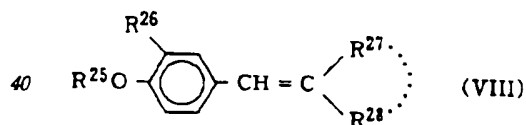
【化46】



【0041】 (式中、R²¹、R²²は同一または相異な
り、水素原子、水酸基もしくはC₁ ~ C₄ のアルコキシ
基であるかまたはR²¹がフェノキシ基、R²²が水素原子
を表わし、R²³はニトロ基、R²⁴は水素原子、またはR²³
とR²⁴は結合して-COOCH₂CH₂-または-C
ONHCONH-を表わす) で示されるステレン誘導
体、一般式 (VIII) :

【0042】

【化47】



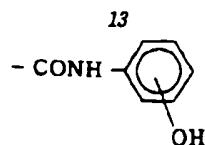
【0043】 (式中、R²⁶はC₁ ~ C₄ のアルキル基、
R²⁷はC₁ ~ C₄ のアルキル基またはC₁ ~ C₄ のアル
コキシ基、R²⁸は

【0044】

【化48】

(8)

特開平5-58894

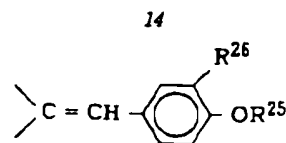


【0045】で示されるアリールカルバモイル基、 R^{24} は水素原子、または R^{24} と R^{25} は互いに結合して $-COX^4$ CH_2 CH_2 - (X^4 はNHまたは

【0046】

【化49】

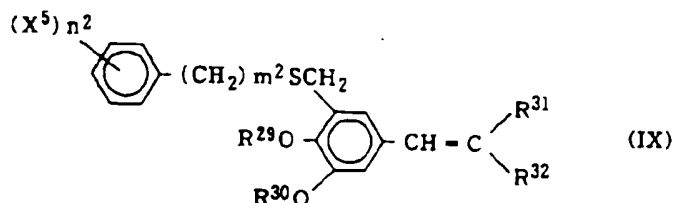
*



【0047】(R^{24} 、 R^{25} は前記と同じ))で示される4-アルコキシスチレン誘導体、一般式 (IX) :

【0048】

【化50】

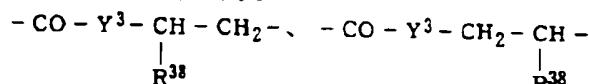


【0049】(式中、 X^4 は水素原子、 $R^{24}O$ (R^{24} は $C_1 \sim C_4$ のアルキル基を表わす)で示されるアルコキシ基、 $C_1 \sim C_4$ のアルキル基、ニトロ基、アミノ基、水酸基、ハロゲンまたは $COOR^{24}$ (R^{24} は $C_1 \sim C_4$ のアルキル基を表わす)で示されるアルコキシカルボニル基、 R^{24} は水素原子、 $C_1 \sim C_4$ のアルキル基または $R^{24}CO$ (R^{24} はフェニル基または $C_1 \sim C_4$ のアルキル基を表わす)で示されるアシル基、 R^{25} は水素原子ま

または $C_1 \sim C_4$ のアルキル基、 R^{25} は $COOR^{25}$ (R^{25} は水素原子または $C_1 \sim C_4$ のアルキル基を表わす)またはアミド、 R^{25} はシアノ基または $R^{25}SO_2$ (R^{25} は $C_1 \sim C_4$ のアルキル基を表わす)で示されるアルキルスルフォニル基、または R^{24} と R^{25} は互いに結合して

【0050】

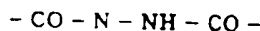
【化51】



【0051】(R^{24} は水素原子または $C_1 \sim C_4$ のアルキル基、 Y^3 は酸素原子またはNHを表わす)または

【0052】

【化52】

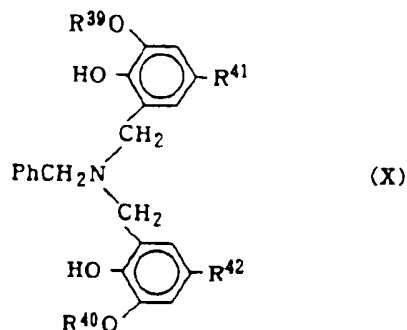


【0053】 n^2 は X^4 がハロゲンのとき1~5の整数、それ以外の場合は0または1、 m^2 は0~3の整数を表わす)で示される3-フェニルチオメチルスチレン誘導体、一般式 (X) :

【0054】

【化53】

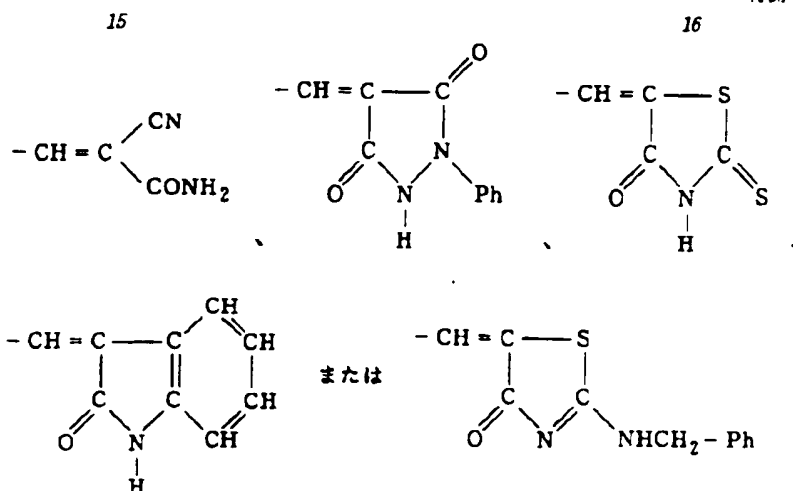
30



【0055】(式中、 R^{24} 、 R^{25} は同一または相異なり、水素原子または $C_1 \sim C_4$ のアルキル基、 R^{41} 、 R^{42} は同一または相異なり、

【0056】

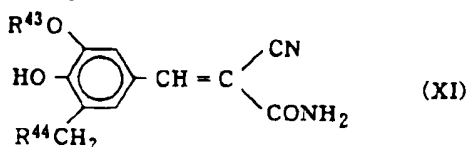
【化54】



【0057】、Phはフェニル基を表わす)で示される
トリベンジルアミン誘導体および一般式 (XI) :

【0058】

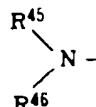
【化55】



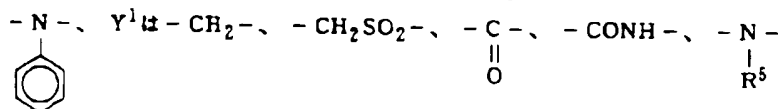
【0059】(式中、R⁴³は水素原子またはC₁~C₄のアルキル基、R⁴⁴は

【0060】

【化56】



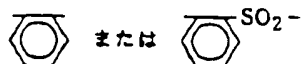
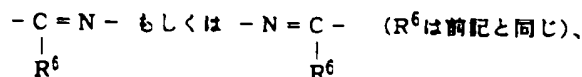
【0061】(R⁴⁶は水素原子、C₁~C₄のアルキル*



【0066】、-NHCO-、酸素原子または硫黄原子、またはX¹-Y¹が

※

【化59】



【0068】であるものが好ましい。

【0069】また、上記一般式 (I) に包含される化合

*基、フェニル基またはベンジル基、R⁴⁶はフェニル基またはベンジル基を表わす)で示されるアミノ基またはフェノキシ基を表わす)で示されるα-シアノケイ皮酸アミド誘導体またはこれらの造塩可能なものの塩を含有する抗腫瘍剤に関する。

20

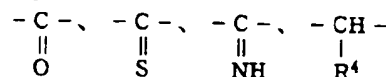
【0062】

【実施例】本発明の一般式 (I) で示される3,5-ジイソプロピルベンジリデン複素環式化合物においては、R¹が水素原子またはベンジル基、R²が水素原子またはC₁OR³ (R³は前記と同じ)で示されるアシル基、X¹が

【0063】

【化57】

30



【0064】(R⁴は前記と同じ)または

【0065】

【化58】

50

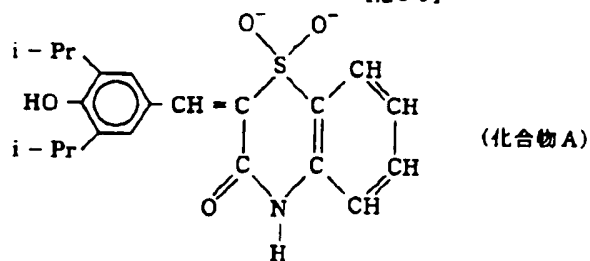
(10)

特開平5-58894

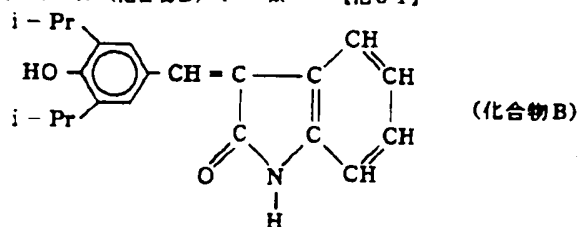
17

18

ゾチアジン-3- (4-ハイドロゲン) - オン-1,1- ジオキ
 サイド (化合物A) : *

* 【0070】
【化60】

【0071】 3- (3,5-ジイソプロピル-4- ハイドロキシ
 ベンジリデン) -2- オキシインドール (化合物B) : *

* 【0072】
【化61】

【0073】 などがあげられる。

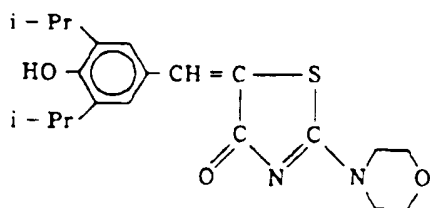
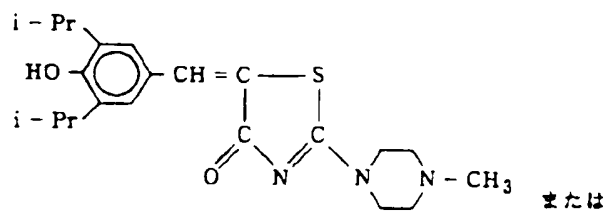
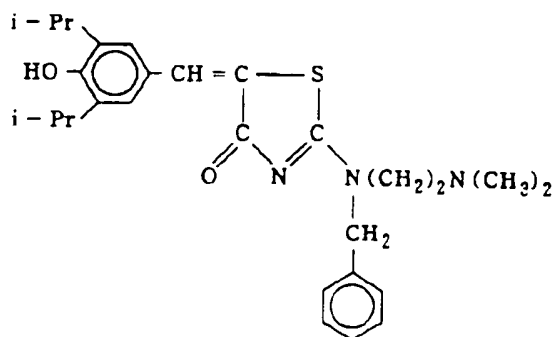
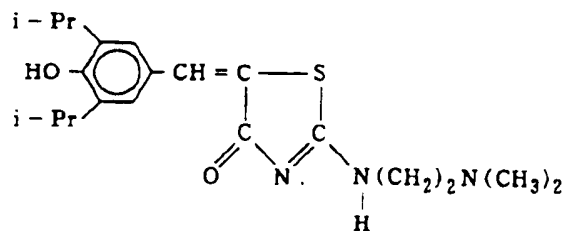
【0075】

【0074】 本発明の一般式 (II) で示される4-チアゾ
 リノン誘導体においては、

【化62】

19

20



【0076】が好ましい。

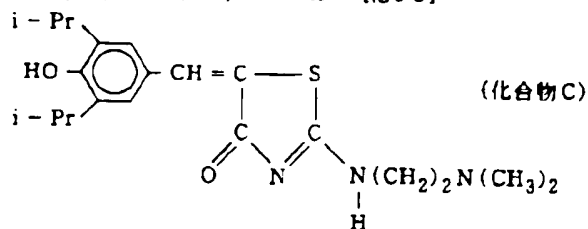
*ジメチルエチル) アミノ-1,3-チアゾール-4-オン (化合物C) :

【0077】上記一般式(11)に含まれる化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、5-(3,5-ジイソ

【0078】

プロピル-4-ヒドロキシベンジリデン)-2-(N',N'-*40

【化63】



(化合物C)

【0079】5-(3,5-ジイソプロピル-4-ヒドロキシベンジリデン)-2-(4-メチルピペラジニル)-1,3-チア

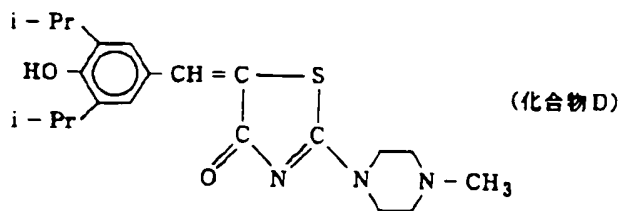
50

ゾール-4-オン (化合物D) :
【0080】

21

22

【化64】



【0081】などがあげられる。

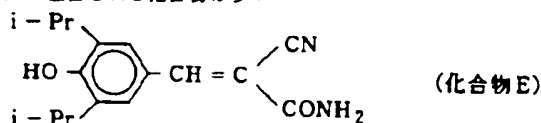
★ち、とくに好ましい化合物としては、 α -シアノ-3,5-
10 ジイソプロピル-4- ヒドロキシケイ皮酸アミド (化合物
E) :

【0082】本発明の一般式(III)で示される3,5-ジイ
ソプロピル-4- ヒドロキシステレン誘導体においてはR
¹¹が水素原子またはシアノ基、R¹²がアミドまたは-C
ONHCONH₂であるものが好ましい。

【0084】

【化65】

【0083】上記一般式(III)に包含される化合物のうち



【0085】などがあげられる。

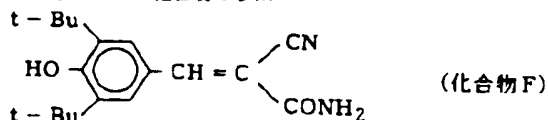
★ち、とくに好ましい化合物としては、 α -シアノ-3,5-
ジイソプロピル-4- ヒドロキシケイ皮酸アミド
(化合物F) :

【0086】本発明の一般式(IV)で示される3,5-ジイ
ソプロピル-4- ヒドロキシステレン誘導体におい
ては、R¹⁴がカルバモイル基、R¹⁵がシアノ基またはヒ
ドロキシエチル基であるものが好ましい。

【0088】

【化66】

【0087】上記一般式(IV)に包含される化合物のうち



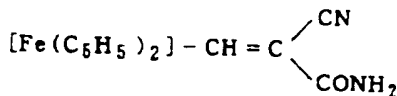
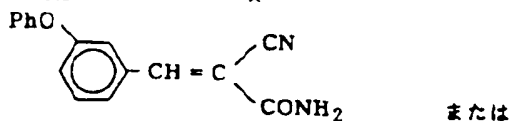
【0089】などがあげられる。

★【0091】

【0090】本発明の一般式(V)で示される α -シア
ノアクリル酸アミド誘導体においては

【化67】

★



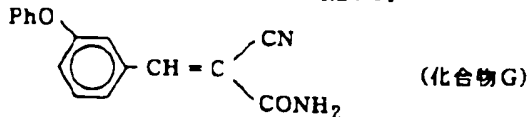
【0092】が好ましい。

★エノキシケイ皮酸アミド (化合物G) :

【0093】上記一般式(V)に包含される化合物のうち
ち、とくに好ましい化合物としては、 α -シアノ-3-フ

【0094】

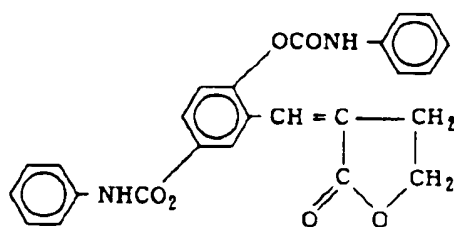
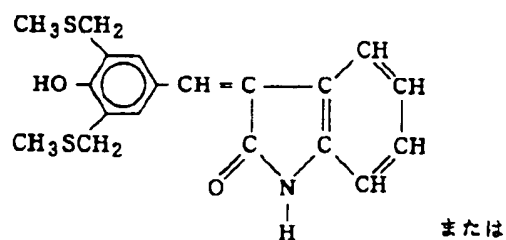
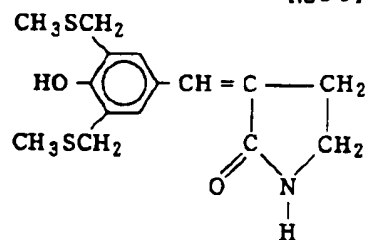
【化68】



【0095】などがあげられる。

50 【0096】本発明の一般式(VI)で示される α -ベン

ジリデン-2- プチロラクトンまたはγ- プチロラクタム * 【0097】
誘導体においては * 【化69】



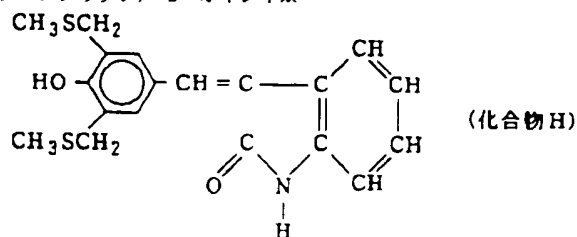
【0098】が好ましい。

※インドール (化合物H) :

【0099】上記一般式 (VI) に包含される化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、3-(3,5-ジメチルチオメチル-4- ヒドロキシベンジリデン) -2- オキシイ※

【0100】

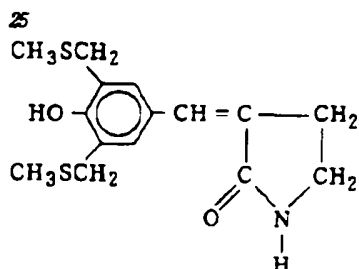
【化70】



【0101】3-(3,5-ジフェニルメチル-4- ヒドロキシベンジリデン) -2- オキシインドール (化合物I) :

【0102】

【化71】



(化合物I)

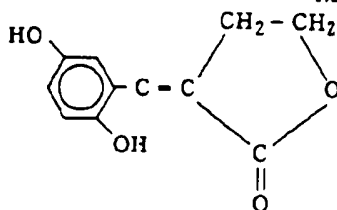
【0103】3-(3,5-ジメチルチオメチル-4-ヒドロキシベンジリデン)-2-ピロリジノンなどがあげられる。

【0104】本発明の一般式(VII)で示されるスチレン誘導体においてはR¹¹、R¹²が同一または相異なる水素基またはC₁~C₃のアルコキシ基、R¹³がニトロ基、R¹⁴が水素原子またはR¹³とR¹⁴が結合して-COOC H; CH₃-もしくは-CONHCONH-であるもの*

*が好ましい。

10 【0105】上記一般式(VII)に含まれる化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、α-(2,5-ジヒドロキシベンジリデン)-γ-ブチロラクトン(化合物J)：

【0106】
【化72】

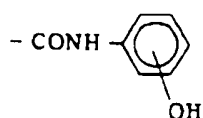


(化合物J)

【0107】などがあげられる。

【0108】本発明の一般式(VIII)で示される4-アルコキシスチレン誘導体においては、R¹⁵がC₁~C₃のアルキル基、R¹⁶がC₁~C₃のアルキル基またはC₁~C₃のアルコキシ基、R¹⁷が

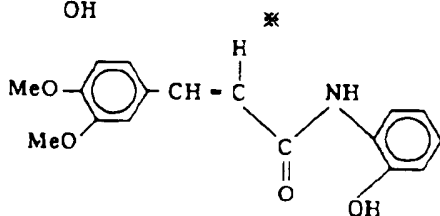
【0109】
【化73】



※【0110】で示されるアリルカルバモイル基、R¹⁸が水素原子、またはR¹⁷とR¹⁸が結合して-COX⁴CH₃-(X⁴は前記と同じ)であるものが好ましい。

【0111】上記一般式(VIII)に含まれる化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、3,4-ジメトキシ-2-ヒドロキシケイ皮酸アニリド(化合物K)：

30 【0112】
【化74】



(化合物K)

【0113】などがあげられる。

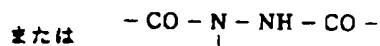
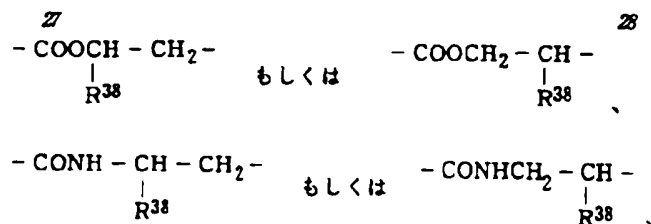
【0114】本発明の一般式(IX)で示される3-フェニルチオメチルスチレン誘導体においては、X⁵が水素原子、ハロゲン、R¹⁹O (R¹⁹は前記と同じ)またはC₁~C₃のアルキル基、R²⁰が水素原子、R²¹が水素原子またはC₁~C₃のアルキル基、R²²がCOOR²³ (R

40 R²³は前記と同じ)またはアミド、R²⁴がシアノ基またはR²⁴SO₂ (R²⁴は前記と同じ)であるかまたはR²⁴とR²⁵が互いに結合して

【0115】
【化75】

(15)

特開平5-58894



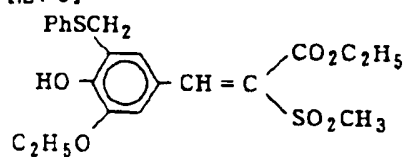
【0116】であるものが好ましく、具体的には

【0118】

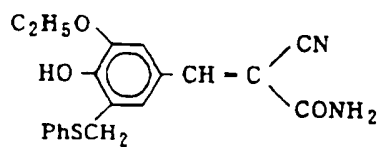
【0117】

【化77】

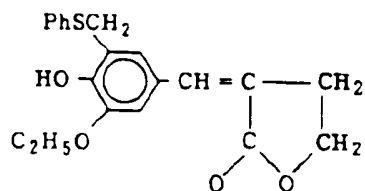
【化76】



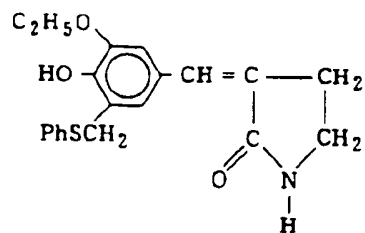
20



30



40



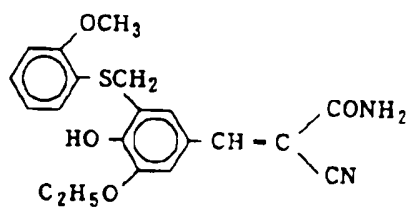
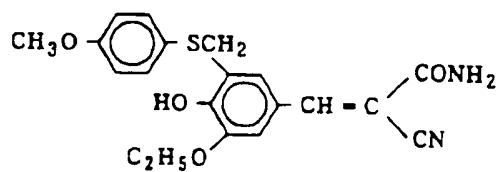
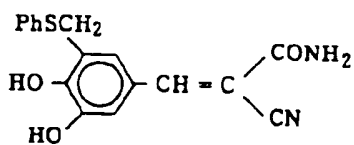
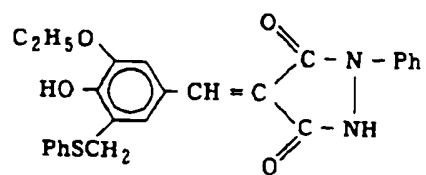
50

(16)

特開平5-58894

29

30



【0119】

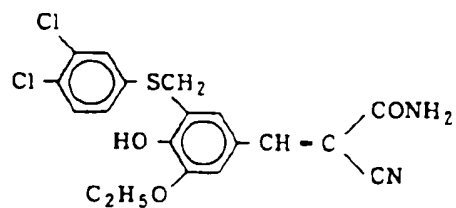
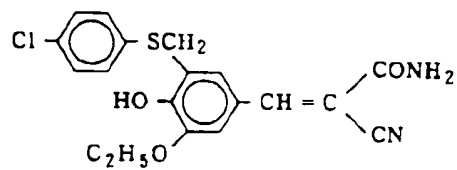
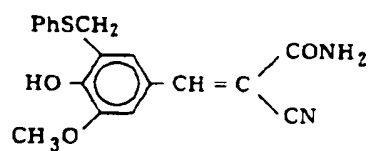
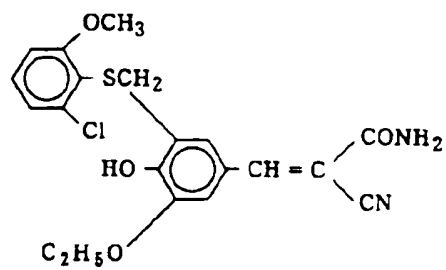
【化78】

(17)

特開平5-58894

31

32

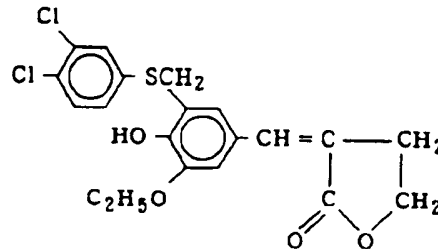
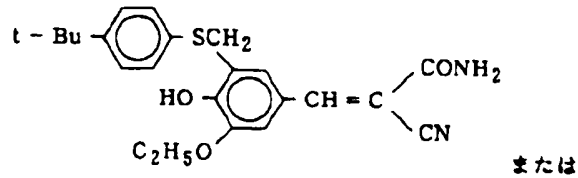


[0120]

[化79]

33

34



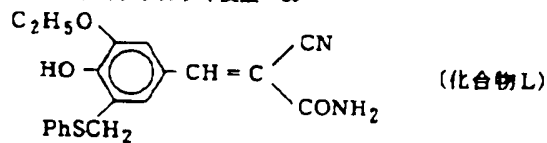
【0121】が好ましい。

*アミド (化合物L) :

【0122】上記一般式 (IX) に包含される化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、 α -シアノ-3-エトキシ-4-ヒドロキシ-5-フェニルチオメチルケイ皮酸*20

【0123】

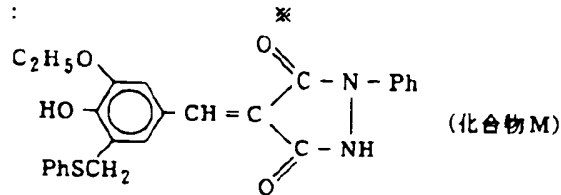
【化80】



【0124】4-(3-エトキシ-4-ヒドロキシ-5-フェニルチオメチルベンジリデン)-1-フェニルピラゾリジン-3,5-ジオン (化合物M) :

※【0125】

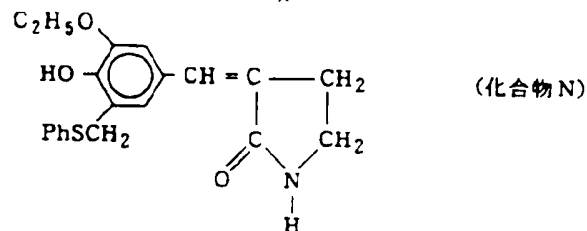
【化81】



【0126】3-(3-エトキシ-4-ヒドロキシ-5-フェニルチオメチルベンジリデン)-2-ピロリジノン (化合物N) :

★【0127】

【化82】



【0128】などがあげられる。

基、 R^{11} 、 R^{12} が共に

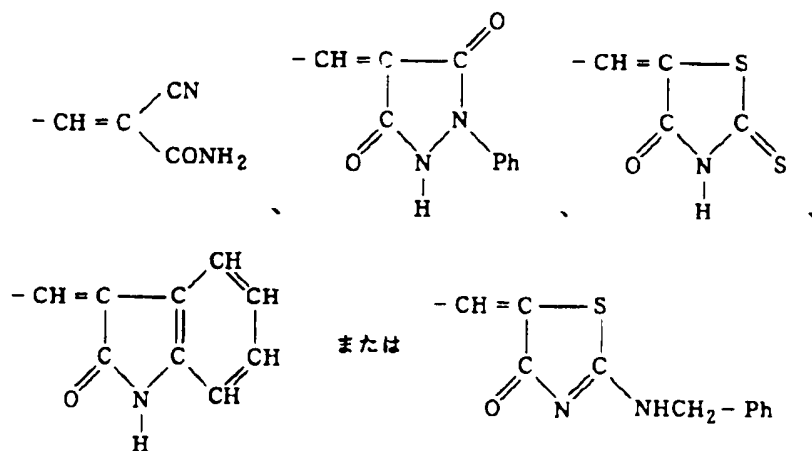
【0129】本発明の一般式 (X) で示されるトリベンジルアミン誘導体においては R^{11} 、 R^{12} が共ににエチル

【0130】

【化83】

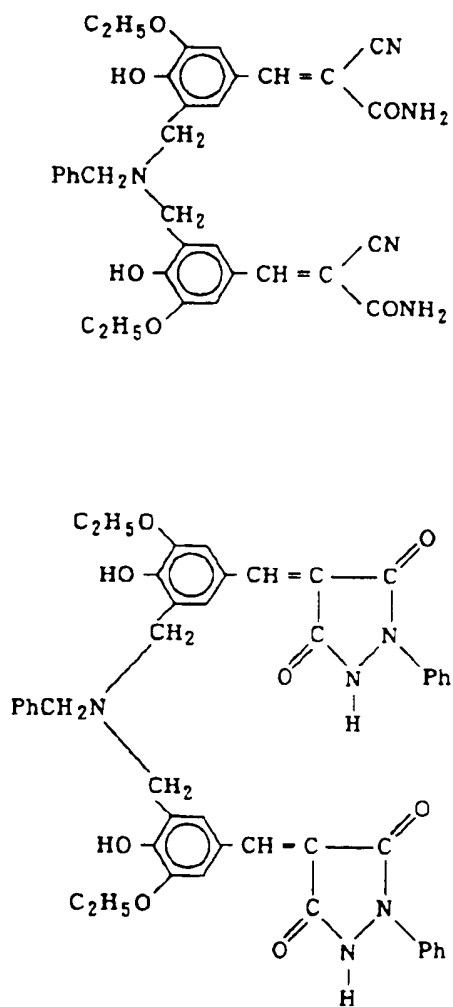
35

36



【0131】であるものが好ましく、具体的には
【0132】

【化84】



[0133]

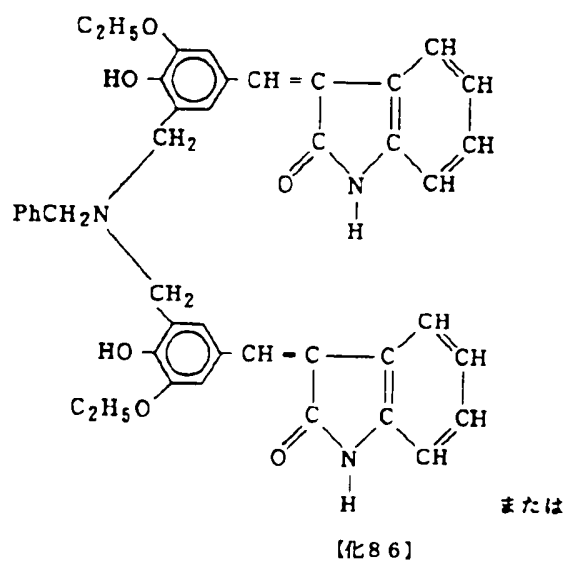
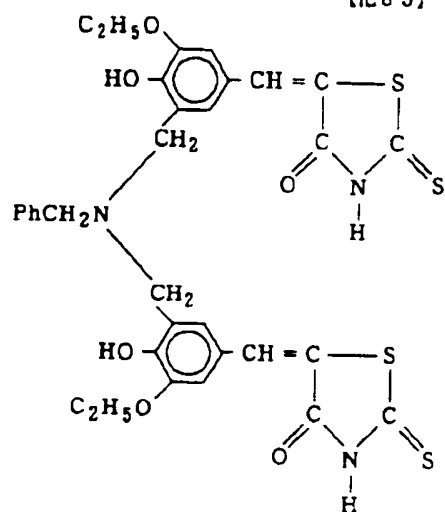
37

(20)

38

特開平5-58894

[化85]



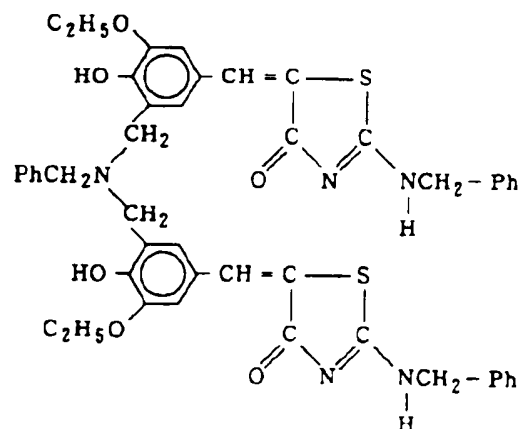
または

[化86]

[0134]

39

40



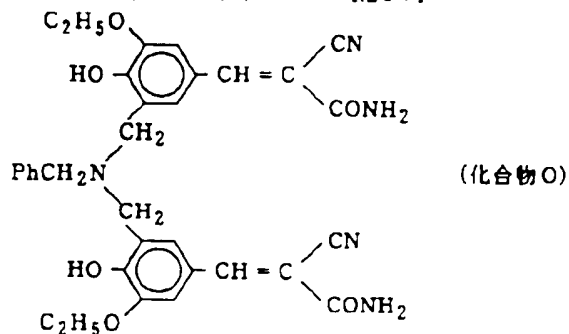
【0135】が好ましい。

【0136】上記一般式 (X) に包含される化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、N,N-ビス [5-(2'-カルバモイル-2'-シアノエテニール)-3-エトキシ]

*-2-ヒドロキシベンジル] ベンジルアミン (化合物 O) :

【0137】

【化87】



(化合物O)

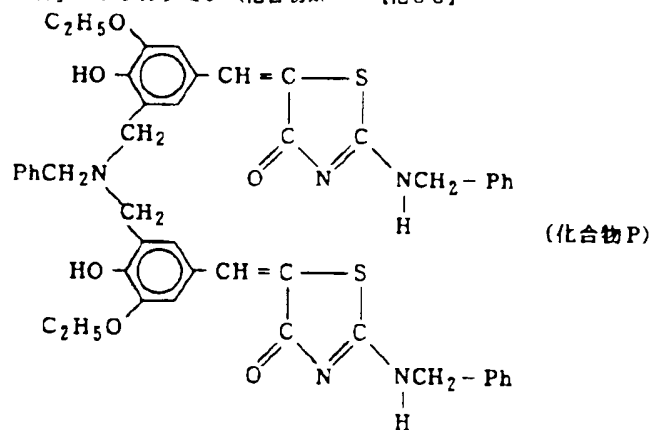
【0138】N,N-ビス [5-(2'-ベンジルアミノ-4'-

オキシ-1',3'-チアゾリデエンメチール)-3-エトキシ]

【0139】

シ-2-ヒドロキシベンジル] ベンジルアミン (化合物※)

【化88】



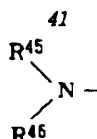
(化合物P)

【0140】などがあげられる。

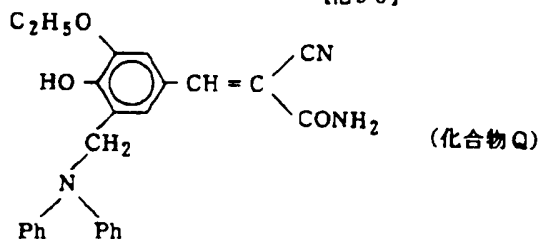
【0142】

【0141】本発明の一般式 (XI) で示される α -シアノケイ皮酸アミド誘導体においては、R**が水素原子またはC₁~C₃のアルキル基、R**が

【化89】



【0143】(R⁴⁵、R⁴⁶は前記と同じ)で示される基であるものが好ましい。



【0146】などがあげられる。

【0147】上記一般式(I)、(II)、(III)、(IV)、(V)、(VI)、(VII)、(VIII)、(IX)、(X)および(XI)で示される誘導体の製造法は、それぞれ特開昭62-29570、特開昭62-29579、特開昭62-39522、特開昭62-39523、特開昭62-39558、特開昭62-39559、特開昭62-42923、特開昭62-42925、特開昭62-111962、特開昭63-141955、特開昭63-222153に記載されている。

【0148】本発明に使用する前記有効成分は、治療を必要とする患者(動物およびヒト)に対し、毒性を示さない用量であれば、任意の用量を投与するが、望ましくは、10~1000mg/kgの用量範囲で、一般に数回に分けて、したがって一日当たり20~4000mg/kgの全日用量で投与することができる。用量は、病気の重さ、患者の体重および当業者が認める他の因子によって変化させることができる。

【0149】本発明の抗腫瘍剤は、固体制剤または液体制剤として調製され、経口または非経口で投与される。経口投与用固体制剤は、粉末剤、顆粒剤、錠剤、丸剤、カプセル剤など、非経口および経口投与用液体制剤は、エリキシル剤、懸濁剤、乳剤、シロップ剤、アルコール溶液剤、油性溶液剤などの形態で使用する事ができる。

【0150】医薬用固体担体としては、乳糖、デンプン、シュクロース、マンニト、ソルビット、デキストリン、セルロース、炭酸カルシウムなどがあり、必要に応じて適当な滑沢剤、結合剤などの補助剤を添加することができる。医薬用液体担体としては、水、エタノール、グリセリン、プロピレングリコール、植物油、油状エステルなどの常用溶媒があり、必要に応じて適当な懸濁剤、乳化剤、甘味料、香料、保存剤などの補助剤を添加することができる。

【0151】本発明の抗腫瘍剤は、後述のヌードマウス移植ヒト腫瘍およびヒト腫瘍由来細胞に対する試験結果から明らかなように、各種腫瘍細胞に対しすぐれた増殖

*【0144】上記一般式(XI)に含まれる化合物のうち、とくに好ましい化合物としては、 α -シアノ-3-ジフェニルアミノ-5-エトキシ-4-ヒドロキシケイ皮酸アミド(化合物Q)：

【0145】

【化90】

抑制効果を示し、しかも毒性は、特開昭62-29570、特開昭62-29579、特開昭62-39522、特開昭62-39523、特開昭62-39558、特開昭62-39559、特開昭62-42923、特開昭62-42925、特開昭62-111962、特開昭63-141955、特開昭63-222153に記載されているようにいずれもきわめて低い。したがって、本発明の化合物は安全で強力な抗腫瘍剤として有用である。

【0152】以下、本発明の抗腫瘍剤の薬理作用とその効果について、実験例をあげて詳細に説明するが、本発明はもとよりかかる実施例のみに限定されるものではない。

【0153】癌細胞増殖抑制作用

実施例1

10% (容量%) 牛胎児血清 (以下FCSと略称する) 含有アルファー・ミニマル・エッセンシャルメディウム (以下アルファーMEMと略称する。ギブコ・ビー・アール・エル (GIBCO BRL) 社製) 中でセミコンフリュエントに増殖したヒト口腔癌由来癌細胞株MH-85をトリプシン処理後、10%FCS含有アルファーMEMを用いて、 1×10^4 Cell/mlの細胞濃度で懸濁し、懸濁液を96穴のマルチウェルディッシュにウェル当り100 μ lずつ分注した。ついで37℃、5%CO₂下で24時間培養したのち、培地を除去し、段階希釈した被験化合物を含有する無血清アルファーMEM 100 μ lを加えた。対照のウェルには被験化合物を溶解させた溶媒を添加した。被験化合物として、前記化合物Iおよび、化合物Iの構造類似体でチロシinkinase活性を示さない α -シアノ-4-ヒドロキシケイ皮酸アミド (化合物R) (キャンサーリサーチ (Cancer Research)、第49巻、2374~2378頁、(1989)参照)を用いた。被験化合物を添加したのち24時間培養し、その後[メチル-³H]チミジン ([methyl-³H] Thymidine) (アマシャム (Amersham) 社製) を各ウェル当り18.5kBqずつ添加し、さらに4時間培養することにより増殖中の細胞に[³H]チミジンを取り込ませた。細胞をCa⁺⁺およびMg⁺⁺フリーのリン酸緩衝液 (以下CMF-PBSと略称する) で洗

浄後、ウェル当り 100 μ l の0.25%トリブシン/0.02%エチレンジアミン4酢酸二ナトリウム（以下EDTAと略称する）液を加えて37℃、10分間インキュベーションすることにより細胞を懸濁液として回収し、全量を5mlの液体シンチレーターACS-IIを含むバイヤルに入れ、液体シンチレーションカウンターにて細胞に取り込まれた放射活性を測定した。n=6で検討した結果の平均

表

1

濃 度 (μ M)	dpm			
	化 合 物 L		化 合 物 R	
	平 均	S.D.	平 均	S.D.
0	87847	5841	87847	5841
1.6	76473	7653	93146	2901
3.1	70220	9201	90210	4356
6.3	56161	8747	92220	3729
12.5	30056	7044	98676	4245
25	6271	1910	100304	5975
50	1407	221	93277	5991
100	368	51	81110	8244

【0155】実施例2

24穴マルチウェルディッシュの各ウェルに、ヒト口腔癌由来細胞株HSC-2、ヒト舌癌由来細胞株HSC-3、ヒト乳癌由来細胞株ZR-75-1およびMCF-7、ヒト大腸癌由来細胞株LOVOおよびDLD-1、ヒト肺癌由来細胞株PC-9、ヒト胃癌由来細胞株KATOIII、ヒト子宮内臓癌由来細胞株HEC-1、ヒト子宮頸部癌由来細胞株HeLaS₃、ヒト膀胱癌由来細胞株EJ-1をそれぞれ 10^4 cell/mlの濃度で懸濁した細胞懸濁液1mlを加え、37℃、5%CO₂下、4時間培養し細胞をディッシュに接着させたのち、各ウェルに段階希釈した被験化合物を加えた。対照のウェルには被験化合物を溶解させた溶媒を添加した。そのうち、[メチル-³H]チミジン（[methyl-³H] Thymidine）（アマシ

30

*均放射活性と標準偏差（S. D.）を表1に示す。チロシンキナーゼ阻害活性を示す化合物LはMH-85の[³H]チミジン取り込みを強く阻害したが、チロシンキナーゼ阻害活性を示さない化合物Rは全く阻害しなかった。

【0154】

【表1】

ヤム（Amersham）社製）を各ウェル当り37Bqずつ添加し培養を続けた。16時間後、細胞を各ウェル当り1mlのリン酸緩衝生理食塩水（以下、PBSと略称する）で3回洗浄し、続いて、10%トリクロロ酢酸溶液 500 μ lを加えて10分間放置後、不溶性成分を 400 μ lの0.5 N-NaOH溶液を用いて溶解し、氷酢酸を用いて中和後、その30 μ lをバイヤルに入れ液体シンチレーターACSII 2mlを加え、液体シンチレーションカウンターを用いて放射活性を測定した。n=2で測定し、えられた結果より、各化合物の癌細胞増殖を50%抑制する濃度を求め表2に示した。

【0156】

【表2】

表 2

化合物	IC ₅₀ (μM)										
	HSC-2 (口腔癌)	HSC-3 (舌癌)	ZR-75-1 (乳癌)	WCF-7 (乳癌)	LOVO (大腸癌)	DLD-1 (大腸癌)	PC-9 (肺癌)	KATOIII (胃癌)	HEC-1 (子宮内臓癌)	HeLaS ₃ (子宮頸癌)	EJ-1 (膀胱癌)
A	30	35	20	26	32	45	nt	nt	nt	38	12
B	5.8	6.3	2.5	4.8	16	8.6	9.7	31	4.9	10	4.8
C	10	8.5	5.3	nt	nt	nt	nt	nt	nt	nt	7.6
D	21	15	9.3	8.5	nt	14	19	nt	nt	nt	8.2
E	28	26	19	28	nt	nt	nt	nt	34	nt	31
F	58	62	45	51	nt	nt	nt	nt	nt	nt	65
G	68	72	85	62	nt	nt	nt	nt	nt	nt	85
H	5.6	5.9	2.4	5.1	16	8.0	6.8	38	4.5	8.4	5.0
I	7.0	5.9	5.0	5.0	nt	nt	nt	nt	7.6	nt	7.6
J	62	47	65	54	nt	nt	nt	89	48	63	55
K	62	59	61	42	63	55	49	69	51	57	61
L	91	33	15	6.3	57	28	42	68	39	28	24
M	nt	nt	54	62	nt	nt	nt	nt	45	nt	67
N	2.8	4.0	2.4	3.6	15	6.0	8.6	nt	13	28	24
O	3.6	5.2	3.4	3.1	35	nt	nt	nt	18	nt	8.7
P	5.2	3.8	3.3	2.5	nt	nt	nt	nt	13	nt	15
Q	35	45	20	15	nt	nt	nt	nt	52	nt	42
R	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100

(注) nt: 試験せず (not tested)

【0157】実施例3
BALB/C-nu/JCLマウスの皮下に移植して50日増殖させたヒト口腔癌MH-85を無菌的に摘出し、その約5~6mm角(約100mm²)を1群5匹のBALB/C-nu/JCLマウス(6週令、雄)の側腹部皮下に移植した。移植24時間後から化合物Lを、1匹当り 200μ

g腹腔に、一日一回21日目まで連続投与し、15日目、30日目、49日目、59日目に腫瘍の長径と短径を測定し、腫瘍サイズ(mm³)を算出し、対照群に対する化合物L投与群の腫瘍増殖抑制率を下記の式より求め比較した。

【0158】

【数1】

$$\text{増殖抑制率 (\%)} = \frac{C - T}{C} \times 100$$

T: 投与群の平均腫瘍サイズ (mm³)

C: 対照群の平均腫瘍サイズ (mm³)

【0159】その結果を、表3に示す。

*【表3】

【0160】

*10

表 3

経 時	腫瘍サイズ (mm ³)		増殖抑制率 (%)
	対 照 群	化合物 L 投与群	
15 日 目	977.2 ± 759.3	366.4 ± 263.6	62.5
30 日 目	3392.7 ± 1695.9	857.8 ± 524.3	74.7
49 日 目	8504.4 ± 2754.9	2482.9 ± 1169.0	67.6
59 日 目	9420.4 ± 2955.7	3866.3 ± 1519.2	59.0

【0161】

な抗腫瘍剤が提供される。

【発明の効果】本発明により、毒性の低い、安全で強力

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 K 31/12

8413-4C

31/16

8413-4C

31/165

8413-4C

31/22

8413-4C

31/27

8413-4C

31/275

8413-4C

31/34

7252-4C

31/365

7252-4C

31/40

7252-4C

31/415

7252-4C

31/505

7252-4C

31/535

7252-4C

C 0 7 D 209/34

9283-4C

231/20

6701-4C

307/33

// C 0 7 D 207/38

7019-4C

233/32

7252-4C

277/54

7019-4C

(26)

特開平5-58894

279/16

8314-4C

17/5/1

DIALOG(R) File 351: Derwent WPI

(c) 2001 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

009427756

WPI Acc No: 1993-121272/199315

XRAM Acc No: C93-053880

New antitumour drugs contg. tyrosine kinase inhibitors - have low toxicity and has good antitumour effect

Patent Assignee: KANEKA CORP (KANF)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 5058894	A	19930309	JP 91215448	A	19910827	199315 B

Priority Applications (No Type Date): JP 91215448 A 19910827

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 5058894	A	26	A61K-031/425	

Abstract (Basic): JP 5058894 A

Drug contains 3,5-diisopropylbenzylidene heterocyclic cpds, 4-thiazolinones, 3,5-diisopropyl -4-hydroxystyrenes, 3,5-ditert-butyl-4-hydroxystyrenes, alpha-cyanoacrylic acid amides, alpha-benzylidene-gamma-butyrolactones or gamma-butyrolactams, styrenes, 4-alkoxystyrenes, 3-phenylthiomethylstyrenes of formula (IX), tribenzylamines and alpha-cyanocinnamic acid amides as an effective ingredient.

USE/ADVANTAGE - The cpds inhibit tyrosine kinase activity and show antitumour effect, they show low toxicity.

Dwg.O/O

Title Terms: NEW; ANTITUMOUR; DRUG; CONTAIN; TYROSINE; KINASE; INHIBIT; LOW ; TOXIC; ANTITUMOUR; EFFECT

Derwent Class: B02; B03; B05

International Patent Class (Main): A61K-031/425

International Patent Class (Additional): A61K-031/05; A61K-031/08;

A61K-031/085; A61K-031/12; A61K-031/16; A61K-031/165; A61K-031/22;

A61K-031/27; A61K-031/275; A61K-031/34; A61K-031/365; A61K-031/40;

A61K-031/415; A61K-031/505; A61K-031/535; C07D-207/38; C07D-209/34;

C07D-231/20; C07D-233/32; C07D-277/54; C07D-307/33

File Segment: CPI

